

公開講座 第二回 「やさしい経営学」

～ベンチャービジネスの概念を学ぶ～

開催日： 2013 年 8 月 3 日(土) 15:30～17:00

宮脇 敏哉 教授

～起業家の能力と経営の実際を説明します～

商店、会社、団体等の経営は、浮き沈みが大きいことを学ぶ

2011 年の東日本大震災において被害を受けられた方にお悔やみ申し上げます。地震によって多くの起業家の方も商店や会社を失っております。また、家族や社員を失っております。このような喪失感を持ったままで、起業家は立ち直れるかと考えると、多くの被害に心が痛みます。

私も起業家として 24 年間の会社経営を経験しておりますが、このような天災によって窮地に陥ったことはありません。しかし、会社が火災にあったり、暴力介入、金庫どろぼうにあったりしたことはあります。経営学で最近リスクマネジメントという言葉をよく使いますが、日々災難を仮定して生活することは、あまりないのが現状です。

会社を経営していたときに、明日の手形決済資金が後 5,000 円足りない状況に陥った時がありました。資金を数百万円用意した後の 5,000 円はたいへんキツイものがありました。起業家が極限状態に陥ったときには、ある決意をする必要があります。たとえば自宅を手放す、車を手放す、会社をたたむなどです。そして、そのあとに会社を再度立ち上げる等の決意が必要となります。

家庭においても商店や会社経営と同じ問題が発生することがあります。給料日前の 4・5 日は現金が不足してスーパーにも行けないし、いろんな支払もできないこともあります。その時は自分が一番大事にしている趣味や物をやめる「決意」が必要です。私は経営していて会社が苦しい時に 5 年間禁酒をしたことがあります。自分が一番楽しいことをやめるのが良い方向へ行けるのではないのでしょうか。

以上